

平成16年度学校運営重点推進目標の実施状況

個性豊かな教育を創造・実践するとともに、教育研究の向上にたゆまず努力し、地域とともに歩む信頼される学校をめざし、次の取り組みに重点を置く。

○ 新しい教育理念・教育目標の一層の定着を図るとともに、各学科・科、専攻科の教育目標の具現化に努める。

- ・学年当初に教育理念、3つの学校の目標及び10の学生への呼びかけを校長メッセージとして全学生に配布するとともに、クラスルームに掲示をした。
- ・JABEEの各プログラムについて、履修の手引きを作成し、学生への周知を図った。

○ 国立高等専門学校機構の方針に則り、本校の中期計画の着実な実施を図るとともに、引き続き学校運営の効率化、学校活動に対する評価システムの確立、社会的説明責任を果たす活動を充実する。また、教育研究面における高専間協力の推進に努める。

- ・中期計画に盛り込まれた事項について、着実な実施に努めた。
- ・校内の各種委員会の開始時間や委員構成を見直すなど運営の効率化を図った。
- ・外部評価委員会を改組し、学校運営諮問会議を設置し、第1回目の会議を開催した。
- ・機関別認証評価項目等に対応した情報のデータベース化に着手した。
- ・H15年度の活動について、点検報告書、研究業績報告書を作成、公表した。
- ・広報については、年間を通じて積極的にマスコミに情報提供するとともに、市の広報誌、校門の掲示板の活用に努めた。報道件数は前年度に比較し、大幅に増加した。
- ・愛媛大学と教育研究連携協力に関する協定を締結した。また、豊橋技術科学大学等とeラーニングによる授業の実施と単位互換の協定を結び、学生が授業を受講した。
- ・四国6高専間協力については、新たに数学、英語、物理、化学の共通テストの実施、弓削丸を活用した特別講義の実施を行うとともに、6高専の産学連携交流会を開催した。

○ アドミッションポリシーをより明確化し、入学志願者増加対策を充実する。また、ホームページを充実するなどPR活動を強化するとともに、小、中、高等学校との交流を推進する。

- ・入学者増加対策については、ホームページの中学生向け情報の提供を充実したほか、岡山、広島の中学校に対しても学校訪問を実施した。中学校向けに在学生の様子を伝える資料を提供するなど中学校との連携を強化した。
- ・夏期体験学習や学校見学会などを実施した。
- ・ホームページについては、高専の最新情報を積極的に発信するとともに、中学生向けの情報窓口を明確化したほか、各学科のホームページを充実させた。またマスコミに積極的に情報を提供した。

- ・小、中、高等学校との交流については、数学をテーマに教育フォーラムを実施するとともに、サイエンスパートナーシッププログラムにおいて新たに市内の中学校教員を対象とした研修事業を実施した。また、本校教員が中学校3校の授業を参観し、中学校教育の理解を深めた。

○ 教育改善活動を一層推進する。そのため、各学科・科、専攻ごとの教育改善推進体制（計画、実践、評価）を見直すとともに、相互の連携協力システムの確立を図る。また、授業公開の実施、教員間の評価活動を推進するとともに、学校全体の教育改善推進計画を策定し、効果的な推進を図る

- ・年度当初に教育改善計画を策定し、推進を図った。
- ・すべての学科・科について公開授業の実施（年間16回）、保護者向け授業公開日の設定・実施を行うとともに、参加教員の意見が反映されるような取組を目指した。
- ・学生の授業アンケートを実施するとともに、新たに学級担任に関するアンケートを実施し、業務の改善・向上に活用することとした。
- ・学内FD研修会（年間3回）を開催するとともに、学外の各種FD研修会等に合計44回、延べ65人の教員を参加させた。

○ 学生の学習意欲の向上及び自律的な学習・生活習慣の形成を支援するため、オフィスアワー制度の定着、学級担任サポート体制の充実、学生ごとの指導記録の作成、HR 活動の活性化など学校全体での取り組みを強化する。また、保護者との懇談、授業・クラブ参観など保護者との連絡、連携を強化する。

- ・アドバイザー制度及びオフィスアワー制度について学内FD研修会を実施するとともに、カウンセリングに関する研修会を実施した。
- ・年度当初それぞれ学級経営計画を立案し、各学科・科等において学級担任のサポートの強化に役立てた。
- ・長期休業中に英語及び数学について特別な補習プログラムを実施した。
- ・全学年を対象に英語の実力試験を実施したほか、数学検定試験、TOIEC 受験等を推奨した。
- ・保護者との連携については、年2度個別懇談を実施したほか、1日授業公開日を昨年を引き続き実施した。

○ 学生の個性、能力、興味・関心等に応じた進路実現を目指し、進路に応じた学習支援等を充実し、個に応じたきめの細かい進路指導を行う。また、進路指導を計画的、体系的、組織的に行う体制の確立に努める。

- ・本年度は、本科進学者53名（専攻科31名、大学院編入22名）、就職者98名、専門学校など9名の進路決定をみた。専攻科については、大学院進学4名、就職20名であった。
- ・卒業生の講話を低学年で実施したほか、4年生についてはインターンシップを実施するほか、学科により工場見学旅行、卒業生の講話などを実施した。
- ・専攻科生について、1年生全員を対象にシニアインターンシップを実施した。
- ・4年生、専攻科1年生を対象に企業説明会を今年度も継続して実施した。

○ 学生の自主的、主体的な課外活動を奨励、支援するとともに、学生として規律ある生活が送れるよう教職員が一体となった指導を行う。特に、チャレンジプロジェクト支援事業をはじめ創造教育、健康安全教育、環境美化教育、読書指導の充実に努める。また、身だしなみ、アルバイトに関する新指導方針の定着化に努める。

- ・校門指導、学校周辺の巡回指導を教員全体で分担して定期的を実施し、指導に当たった。
- ・クラブ指導については、5時以降教員全体で分担してクラブ活動安全管理の指導に当たった。
- ・課外活動の成果等を発表する場所として、図書館入り口及び2階のロビーを整備した。
- ・学校生活に対する学生の要望を把握するとともに、学校の教育方針の理解を求める場として学生と学校の交流懇談会を初めて実施した。
- ・留学生と日本人学生相互の文化理解や交流を深めるため、留学生ウィークを開催した。
- ・読書指導については、読后感想コンクールを実施したほか、図書館貸出冊数の一定の増加をみた。また、図書利用について優良なクラスを表彰する制度を始めた。
- ・環境美化活動については、清掃区域のエリアを決めるなど、学生教職員自らの手で美化活動に当たる運動を展開した。
- ・ボランティア活動として、新居浜市内の台風災害の復旧に多くの学生教職員が参加した。
- ・全国プログラミングコンテスト及びロボットコンテスト四国地区大会を本校で主管したが、多くの学生の協力も得て成功裏に終了できた。
- ・低学年の茶髪・ピアスの禁止の指導については一定の成果を得たが、学業と両立させるアルバイト指導については、課題を残した。
- ・8:30登校運動については、課題を残したが、挨拶運動では成果を得ることができた。

○ 研究活動について、地域ニーズに対応した研究を推進するとともに、本校の特色となる研究シーズに応じた学内プロジェクト研究を推進する。研究費の配分について、さまざまな業績評価が反映できる仕組みを採り入れる。また、技術室を中心とした教育研究支援機能の充実に努める。

- ・年度当初に教員ごとに研究計画の提出を求め、個人研究費配分の資料とするとともに、年度末には実施報告書の提出を求め、研究活動の推進を促した。
- ・年度中に1名の教員が博士学位を取得した。また、学位取得記念講演会を開催した。
- ・研究費については、一定の割合について教員ごとに教育研究評価を反映し、教員ごとに配分を行った。また、学内の共同研究、教育改善研究等のための財源を確保し、研究活動の活性化を促した。
- ・科学研究費をはじめ各種の研究助成プログラムの情報をホームページに掲載し、積極的な申請を促した。
- ・技術室の専門性とサービスの向上を図る観点から、来年度からものづくり支援センターを中心に教員による指導体制を強化することとした。

○ 地域との連携を研究・教育の両面にわたり一層推進する。そのため、高度技術教育研究センターを中心に、年間推進計画を策定するとともに、事業・プロジェクト・テーマごとに評価活動を実施するなど「地域連携推進プラン」を推進する。特に、今年度スタートする愛媛県東部地区都市エリア産学官連携事業の推進、高専協会の発足及び高専アイデア通り構想の具体的な展開を図る。

- ・新居浜市と7月に産学共同及び教育・生涯学習に関する連携協力の協定を締結した。
- ・高専技術振興協会「愛テクフォーラム」の発足にむけ、準備を進めた。
- ・文部科学省で採択された都市エリア事業関連の研究を推進するとともに、交流・発信事業を関係機関と協力し、実施した。
- ・共同研究、受託研究等外部資金の導入については、共同研究13件、受託研究8件と前年度より増加した。技術相談についても96件実施した。また、知財関係については、ノウハウの高専機構帰属が1件あった。
- ・高専の技術シーズの紹介を中心とした内容で工業技術懇談会を2回開催したほか、科学技術シンポジウムを実施した。
- ・地域と連携した教育研究を推進するため、高技センター別館を改修し、インキュベーション・ラボラトリーの整備を行った。
- ・新居浜機械産業協同組合の若手技術者を対象に本校実習工場の設備を使った研修会を実施した。
- ・市の生涯学習大学と連携し高専公開講座を実施した。
- ・市の教育委員会と連携し、市内の小中の教員・生徒を対象としたSPP事業を実施するとともに、数学教育をテーマとして教育フォーラムを実施した。
- ・高専アイデア通りプロジェクトについては、川之江切山地区音声案内装置を完成させたほか、数プロジェクトが活動中である。また、アイデア通り工房が整備されたことにとともない、今後一層地域ニーズを汲みいれたプロジェクトを開発する必要がある。

○ JABEE 認定に向けた取り組みを強化する。デザイン工学プログラムの平成17年度の受審に向けた準備を進める。

- ・生物応用化学プログラムについては、JABEEの認定を受け、16年度修了生に対し修了証明書を授与した。来年の中間審査に向けて、プログラムの改善を図り、準備を進めた。
- ・デザイン能力の育成に重点を置いた生産工学プログラム及び電子工学プログラムにJABEEプログラムを再構成し直し、17年度のJABEE受審に向け、準備を進めた。

○ 学校運営の効率化と責任の明確化を図るため、各学科・科、各種委員会、センターは、年度当初に年間の運営重点目標を設定し、年度末に活動実績について評価を実施する。また、事務部門の専門性を高めるため、SD活動に取り組む。

- ・年間の目標をそれぞれ設定するとともに、年度末に活動実績について取りまとめ、評価をおこなうとともに、次年度の目標および計画の立案をおこなった。
- ・事務部門においては、個人ごとの業務目標の設定など業務改善の新たな取り組みをはじめるとともに、情報の共有化、柔軟な事務協力体制の検討を進めた。

○ 予算の効率的、効果的な使用を図るため、配分方法を見直すとともに、校長裁量経費配分対象プロジェクトや学科配分経費の評価を行う。

- ・運営費交付金の効率的な使用を図るため、H15年度の学科配分経費等の評価を行うとともに、情報教育センター運営経費、専攻科運営経費を新たに措置した。
- ・校長裁量経費については、引き続きプロポーザル方式を採用するとともに、新しい教育手法の導

入、ものづくり教育の強化に重点的に配分した。

- ・法人化移行に伴う高専財務会計システムの運用などについては、引き続き円滑な運用に努める。

○ 教官の業績評価システムの改善充実を図る。そのため、教育業績、研究業績、学校運営参画業績、地域貢献業績ごとの評価方法を評価する。

- ・教員研究費の配分に業績評価の結果を反映させた。
- ・業績自己申告書等のフォーマットを改訂した。
- ・教育業績等最優秀教員に対しては、校長表彰をおこなうとともに、優秀教員及び最優秀学級担任についても、研究費の特別配分を実施した。

○ 学習環境の改善のための施設設備の整備を推進するとともに、学校施設の有効活用を促進するため、施設マネジメントの観点に立った施設活用指針を策定する。

- ・電気情報工学科のコンピュータシステムの更新を行うとともに、3DCAD や MATLAB などが全学科共通で使えるように整備した。
- ・冷房設備のない一般教室に天井扇風機を設置した。
- ・ものづくり教育を支援する施設として実習工場工作演習室等を改修し、アイデア通り工房の整備を行った。
- ・地域と連携した教育研究を推進するため、高技センター別館を改修し、インキュベーション・ラボラトリーの整備を行った。

○ 点検評価活動について、年間実施計画を策定し、計画的・重点的・継続的に実施する。点検評価の仕方・内容及び改善活動への反映状況について評価を行い、必要な見直しを行う。

- ・点検部会、企画評価部会との役割を見直し、効率的な点検評価ができる体制を整えるとともに、地域のニーズ等に応じた学校の運営を確保するため、外部評価委員会を改組し、新たに学校運営諮問会議を設置した。
- ・15年度の外部評価活動等の報告書を取りまとめるとともに、15年度の活動を点検した報告書を作成した。

○ 総括的な評価と課題

- ・それぞれの目標について、教職員が共通の認識の下で取り組めるよう、一層の周知徹底を図るとともに、実施に当たっては各部門の創意工夫が活かされることが必要である。
- ・事後評価のしやすい目標の設定の仕方、活動実績に対する効果測定等について、数値化を含め更なる工夫を行う必要がある。
- ・次年度の計画に的確に反映されるよう、一層の努力が必要である。